

西濃農林事務所の普及活動状況

平成26年9月26日現在

今月の重点活動

■集落営農サポート事業 関ヶ原町山中営農組合意見交換会の開催

8月22日午後、山中営農組合役員、関ヶ原町担当者など関係者とともに法人化への推進方向の確認と9月20日夜に組合員を対象に営農組合の推進方向の意見交換を行った。

8月22日は組合役員と、19日の集落営農塾を受講した意見交換を行った。講師が提案した集落営農の法人化について同調し、地域の農地を守るという考えを基本に進めていることを再確認した。



【山中営農組合員の意見交換】

さらに9月20日は末端組合員を対象に、7月に実施した「山中の農地の将来展望に関するアンケート報告会」を実施し、組合の推進方向に関する意見交換を行った。農業普及課からは、集落営農の形態、メリット、法人化の目的及び地域の生活環境を組合員皆で考えるよう説明した。意見交換会では、地域の農地を守るという思いは出席者全員同じ認識と確認され、年末までに再度、組合員で話し合いの場を持つこととされ、組合員は「山中地区をどうしていったら良いか」の課題を持ち寄ることとなっている。

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー ブロッコリー定植始まる

ブロッコリー定植が各地域で始まっている。今年は8月中旬から天候不順が続き、耕起・畝立て等のは場準備が遅れ気味であったが、9月中旬から天候が安定したため、畝立て・定植が一気に進められた。

気温が昨年よりも低く、土の湿り気があるため、ほとんどのほ場では苗の活着は良好であるが、苗の生育中に害虫の発生が多く認められたことから、今後も病虫害発生状況を確認し、早期防除を行っていく。

農業普及課は、栽培経験が少ない農家を重点的に巡回し、畝立て時や定植時の管理指導を行っている。



【定植作業の様子】

売れる農畜産物づくり

■水稲 米の高品質安定生産

<生育状況>

8月13日海津市の「あきたこまち」で始まった西濃管内の早生水稲（ひとめぼれ、コシヒカリ）の収穫はほぼ終了し、現在中生品種「あさひの夢」の収穫が行われている。

8月上旬からの低温日照不足の影響で早生水稲の収穫時期は遅れた。JAにしみのが荷受けした米の品質は「あきたこまち」は1等調整、「ひとめぼれ」「コシヒカリ」は2等調整の予定である。収量はほぼ平年並の見込みである。品質低下の原因は出穂後8月上旬からの日照不足による充実不足と乳白米の発生であった。

「あさひの夢」も成熟が遅れており、晩生の「ハツシモ」も同様である。また、穂が出揃う期間が平年より長かった。

現場の生育経過は「コシヒカリ」、「あさひの夢」で紋枯病の発生が散見され、来年度暦の見直しなどの対策を行っていく。

■小麦 良品質小麦の安定生産

J Aにしみの平成 26 年産小麦のランク区分が決定した。「イワイノダイチ」と「さとのそら」は A ランク、「農林 61 号」は C ランクとなった。「さとのそら」は、すべての項目で基準値を満たし、「農林 61 号」は灰分で許容値を満たすことができなかった。「さとのそら」は、コムギ縞萎縮病の発生が無く、収量も「農林 61 号」より多く、ランク区分も A ランクとなり、品種切り替えに向けて良い結果が得られた。



■きゅうり 新技術導入普及支援事業の取り組み

新技術導入普及支援事業を活用し、ウイルス病を媒介するミナミキイロアザミウマ等の害虫対策として、防虫ネット利用による害虫侵入抑制、天敵による害虫増殖抑制、ハウス周囲の環境改善等総合的な管理技術を組み立て、実証圃を設置した。今後、効果の確認を行っていく。

■牧園芸組合えだまめ部会 土壌消毒機の現地説明会を実施

えだまめほ場で発生しているダイズシストセンチュウ対策のために部会で土壌消毒機を購入したので、D-D 剤を用いた土壌消毒の現地説明会を実施した。8 月 29 日に農薬、機器販売メーカー担当者、部会員、JA にしみの牧支店担当者が出席し、農薬および消毒器の使用法、使用上の注意点が説明され、ダイズシストセンチュウ対策の促進を行った。今後、順次、被害ほ場について土壌消毒を実施し、ダイズシストセンチュウの拡散を防止する。

【環境改善実証圃の設置】



【現地説明会および土壌消毒】

多様な担い手の育成・確保

■担い手育成 集落営農の法人化支援

8 月 24 日入方営農組合、9 月 3 日墨俣営農組合、9 月 13 日上中郷営農組合の法人化研修会が開催され、農業普及課から集落営農の法人化について情報提供を行った。研修会では、任意組織からの法人への移行方法や法人設立後の経営についての不安など意見が出た。これからも各営農組合で地域の営農形態について何度も話し合いが持たれる予定であり、支援をしていく。



【墨俣営農法人化研修会】

県民みんなで育む農業・農村

■小学生食農活動 ブロッコリー定植体験

9 月 4 日に、J A にしみのブロッコリー生産協議会大垣部会が、青墓小学校 3 年生 80 人に対し、食育活動としてブロッコリー定植体験を開催した。

農業普及課からは定植前にパネルを利用し、ブロッコリーの栽培方法、ぎふクリーン農業制度、苗の植え方について説明を行った。生徒は、ブロッコリー苗 4 株を受け取り、スコップを使って定植を行った。12 月には、収穫体験が予定されている。



【定植体験の様子】